

細菌検査の信頼性を得るために

細菌検査の実務と今回の結果から、、、

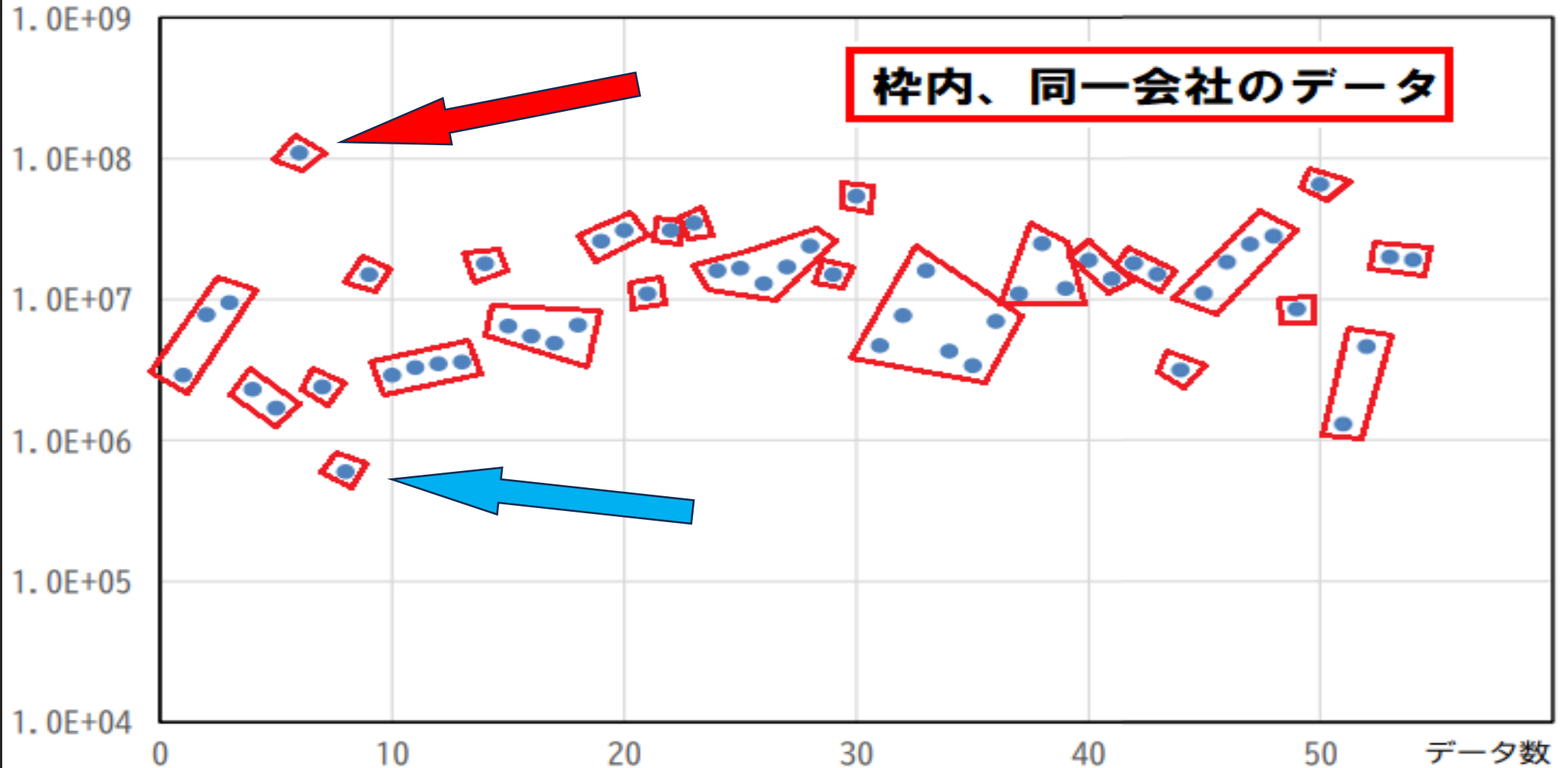
WEB参加の皆さんは、チャット機能も活用してご参加ください



一般生菌数の分布図から

一般生菌数 (cfu/g)

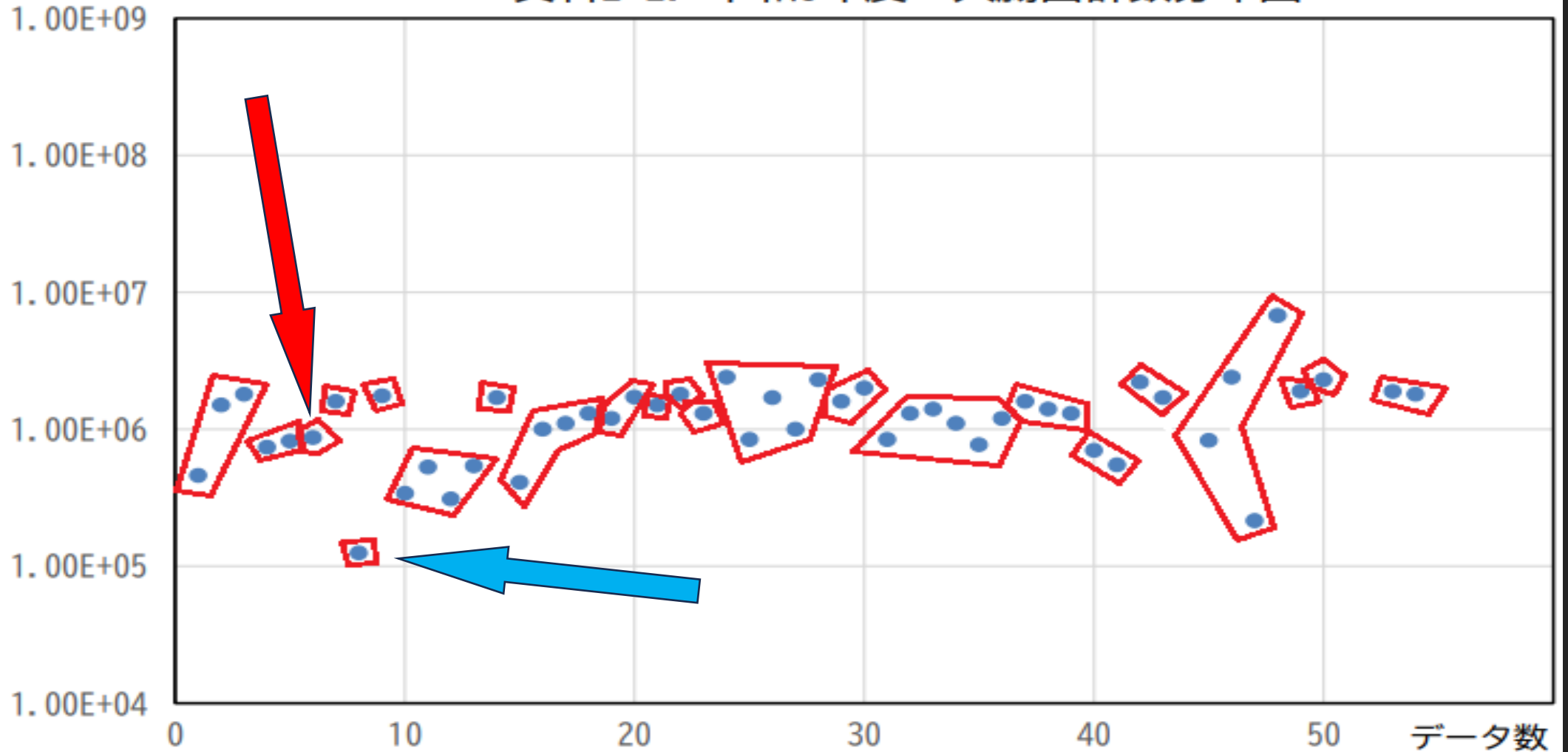
令和5年度 一般生菌数分布図



大腸菌群数の分布図から

大腸菌群数(cfu/g)

資料2-2. 令和5年度 大腸菌群数分布図



報告例からの要注意例と参考例

- ①有効数字と計算方法のルール順守
- ②デソ培地の大腸菌群確定試験、ガス産生等
- ③計算間違い、記載間違いへの注意
- ④デソ培地はコロニー形状での区別も大切
- ⑤大腸菌群 確定試験や完全試験（グラム陰性、桿菌確認等）の理解が違っている方があります。正しい知識をご確認下さい
- ⑥前後の希釈シャーレも確認する習慣を
- ⑦同じ会社で大腸菌群が2種1種と違う例あり
- ⑧酵素基質培地は2菌種検出した（陽性1種）
- ⑨有効数字が得られない場合は300に近い方

報告例からの要注意例と参考例

- ⑩スパイラル法でも過度のコロニー数は要注意
- ⑪フィルム培地利用が増えた。13件/54、24時間培養タイプも有
- ⑬培養時間が許容範囲以下のデータある
- ⑭菌数報告が、上位2桁でない
- ⑮入力間違い？（同会社で培地の種類が違う）
- ⑯2段階の希釈でシャーレのコロニー数が近似。記載ミスか、希釈操作のミスか
- ⑰スパイラル法は、菌数が高くなる？
- ⑱大腸菌の陽性判定間違いに注意（入力ミス？）